令和8年4月 23 日実施　全国学力・学習状況調査【中学校　数学】松山市の調査結果の概要

1　数学について

全国と松山市の調査結果を比較すると、全体的には全国平均とほぼ同じ状況でした。

学習指導要領に示されている「数と式」「図形」「関数」「データの活用」すべて全国平均とほぼ同じ状況でした。

評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断・表現」すべて全国平均とほぼ同じ状況でした。

問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」すべて全国平均とほぼ同じ状況でした。

2　分析結果から特徴が見られた問題

4 正答　－4

全国の正答率　55.3%

松山市の正答率「全国の正答率をやや下回る」

4　下の表は、y が x に反比例する関係を表したものです。□ に当てはまる数を求めなさい。

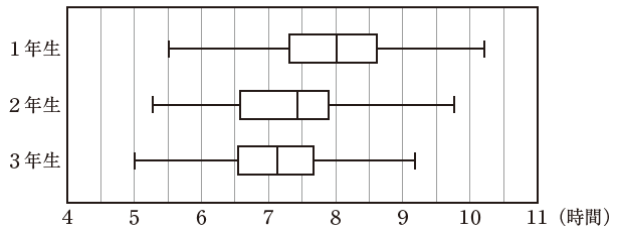
x	…	−3	−2	−1	0	1	2	…
y	…	□	−6	−12	×	12	6	…

9(2) 正答　Ⅰウ　Ⅱオ　全国の正答率　75.8%

松山市の正答率「全国の正答率をやや上回る」

二人は、学年によって睡眠時間の分布の傾向にどのような違いがあるか気になりました。そこで、次のような箱ひげ図に表して、学年別の睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

学年別睡眠時間の箱ひげ図



学年別睡眠時間の箱ひげ図から、次のことがわかります。

1年生は、□Ⅰ□ がおよそ8時間であることがわかる。
2年生と3年生は、□Ⅱ□ が7.5時間以上8時間未満の値であることがわかる。
よって、睡眠時間が8時間未満の生徒の割合は、1年生より2年生と3年生の方が大きい。

上の □Ⅰ□、□Ⅱ□ のそれぞれに当てはまる言葉を、下のアからオまでの中から1つずつ選びなさい。

ア　最小値　　イ　最大値　　ウ　中央値

エ　第1四分位数　　オ　第3四分位数

3　考察

4は、反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、x の値が負の数である場合について対応する y の値を求めることができるかどうかをみる問題です。本市の正答率は全国平均をやや下回っており、0と誤答している生徒が全国よりも多くいました。変化や対応の様子に着目する際、反比例の関数関係を見いだせていない生徒がいたと考えられます。

9は、箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる問題です。本市の正答率は全国平均をやや上回りました。表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する基本的な力が身についている生徒が多いと考えられます。

4　これからの学習にあたって

資質・能力を高めるためには、問題解決の見通しを立てる場面において、自分の考えた解決方法を表現することや、問題解決を振り返る場面において、どのような方法で解決したのかをまとめることが大切です。そのような中で、友達と話し合いながら考察することで、事象を数理的に捉えたり、論理的に説明したりする力が身に付きます。